

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 54 回放射線管理研修会)のお知らせ (6)

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会は、九州支部が中心となって鹿児島市で開催いたします。

今回の年次大会では、「どら、きばんなら！共に」のメインテーマの下、文部科学省に代わり放射線施設の監督官庁となった原子力規制委員会との協調関係の構築、利用者の減少が見られる放射線施設の有効利用の推進と安全管理について考えます。日本アイソトープ協会の公益法人化により放射線安全取扱部会の役割も広がり、主任者はもちろんのこと一般の方にまで門戸を開いた部会としての活動をする事になりました。一方では、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故から2年以上経過しましたが、依然として環境汚染は続き、汚染地域での除染作業は鋭意進められています。今の福島県の現状を多面的に捉えることで、今後の環境汚染の推移と対策を考える契機にしたいと思えます。原子力発電所の事故後、漠然とした放射線・放射能への不安が一般の方に広がっています。放射能や放射線について、母親、子供が抱く不安は特に大きな問題です。また、農産物・海産物などの放射能汚染は先の見通しがつかず不安の一因となっています。原子力発電所事故以来、安全に管理されている放射線施設についても、主任者や管理者はより公益的な観点で住民に対応し、分かりやすい説明を行うことを求める時代となりつつあります。

実行委員会は特別講演、シンポジウムなどを

通して、皆さんに魅力的で、興味深く、役立ち、しかも最新の情報をお届けする意気込みです。多数の参加をお待ちしております。

○開催日：平成 25 年 11 月 14 日(木)、15 日(金)

○会場：鹿児島市民文化ホール

(<http://www.k-kb.or.jp/shibun/>)

鹿児島市与次郎 2-3-1

(JR 鹿児島中央駅よりバス約 20 分)

○テーマ：どら、きばんなら！共に

○参加費：10,000 円 (交流会参加費込)

5,000 円 (年次大会のみ参加)

参加当日に受付にてお手続きください。

第 2 ホールを、部会総会、特別講演、シンポジウムを開催するメイン会場とし、ポスター発表は第 2 ホール 2 階席ロビー、機器展示は第 2 ホールロビーで行います。相談コーナーは第 2 ホール 2 階席ロビーです。参加受付は第 2 ホールロビーの入口に設置いたします。クロークは第 2 ホールロビーに設置しますのでご利用ください。交流会は鹿児島サンロイヤルホテル(太陽の間)にて開催します。市民文化会館 1 階北口玄関を出て徒歩ですぐの場所にあります。

プログラムのハイライト

★特別講演 I (11 月 14 日 10:40~11:40)

「放射線安全行政の現状と原子力規制庁」(仮題)

主任者 コーナー

南山力生氏（原子力規制委員会原子力
規制庁放射線対策・保障
措置課放射線規制室室
長）

RI 関連施設の管轄がこれまでの文部科学省
から原子力規制委員会に移行したことによる変
更点、原子力規制委員会の立場からの放射線安
全管理行政について、放射線規制の最新情報を
講演していただきます。

★特別講演Ⅱ「明治維新と現代日本」（一般開
放）（11月14日 16:30～17:30）

原口 泉氏（志学館大学人間関係学部
教授、鹿児島県立図書館
長）

原口氏は日本近代史が専門で、鹿児島では知
らない人がいないほど著名な方です。鹿児島は
幕末から明治維新にかけて活躍した人材を多数
輩出した場所であり、地元の歴史も織り交ぜた
興味深い話を伺えるものと思っています。一般
開放としています。

★シンポジウム1「母親、子供たちに伝えたい
放射線教育」（一般開放）（11月14日 14:40～
16:20）

放射線教育は、このところ年次大会でテーマ
として取り上げられています。平成23年度は
「教育訓練の向上を目指して」、平成24年度は
「一般の方への放射線教育」と題して開催され、
いずれも興味深い内容のシンポジウムでした。
今年度は、昨年的一般の方への放射線教育の企
画を継続するもので、母親、子供たちが抱く放
射能・放射線への不安について、女性の視点で
放射線教育を語ってもらうことにしています。

【コーディネーター】

石窪奈穂美氏（消費生活アドバイザー・鹿
児島大学非常勤講師）

1) 福島で聞こえる声から考えること
磯部久美氏（神戸学院大学）

2) ある日突然被ばくしたといわれて—基礎教
育の重要性

古田悦子氏（お茶の水女子大学）

3) 原発被災地で求められる放射線教育とは
吉田浩子氏（東北大学）

4) 放射線の「何」が怖いのか

藤島かおり氏（日本アイソトープ協会）

★シンポジウム2「福島の放射線環境～その現
状と課題」（11月15日 9:30～12:30）

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故から
2年以上が経過しました。リスクコントロール
（除染、食品規制）、リスクアセスメント（環境
調査、被ばく線量評価）等が継続して進めら
れ、その結果も明らかにされてきています。こ
のシンポジウムでは、最新情報を整理すること
により“福島の今”を多面的に理解し、浮かび
上がってきた課題に対して主任者として貢献で
きることを考える一助としたいと思います。

1) 低レベル放射線被ばくとがんリスク

秋葉澄伯氏（鹿児島大学）

2) 福島周辺の放射性セシウムの分布状況と経
時変化

斎藤公明氏（日本原子力研究開発機構）

3) 除染モデル実証事業における面的除染の結
果と除染効果の維持について

川瀬啓一氏（日本原子力研究開発機構）

4) 水産物の汚染状況について

森田貴己氏（水産庁）

5) 原発事故による放射性物質が農作物に与え
る影響とその対策に関すること

佐藤 誠氏（福島県農業総合センター）

6) 福島第一原発事故における周辺住民の初期
内部被ばく線量推計

栗原 治氏（放射線医学総合研究所）

★シンポジウム3「次世代 RI 施設へのロード
マップ」（11月15日 13:30～15:00）

研究環境の変化による RI 利用の減少は全国

の RI 施設に共通した傾向といえます。しかしながら、日常の放射線安全管理や利用しやすい研究環境の提供は、ますます主任者の重要な役割となっています。このシンポジウムでは、RI 施設の再生のための既存施設の有効活用に向けた整備や老朽 RI 施設の改善整備及び施設への新たな教育研究機器の導入などの事例・ノウハウを計画から完成に至る経験を基に紹介していただき、今後の次世代 RI 施設へのロードマップを模索するきっかけにしたいと思います。

- 1) 一RI 施設改修のススメーRI 利用者の希望に合った施設造り
宮武秀男氏 (京都大学)
- 2) 小さくてもきらりと光る施設へ
後藤稔男氏 (宮崎大学)
- 3) 老朽施設の有効利用と施設移転の経過報告
杉原 真司氏 (九州大学)

ポスター発表 (第 2 ホール 2 階席ロビー)

ポスター発表は、皆様が直接交流できる場です。多くの方々にご来場いただき、活発な討論や情報交換をしていただけたらと思います。

ポスター展示時間

11 月 14 日 11:00~11 月 15 日 12:30

ポスター発表時間:

奇数番号ポスター:

11 月 14 日 13:30~14:00

偶数番号ポスター:

11 月 14 日 14:00~14:30

機器展示 (第 2 ホールロビー)

(11 月 14 日 9:30~17:30 及び 11 月 15 日 9:00~14:00)

放射線関連製品のメーカーからの展示があります。時間の許す限りゆっくりとご覧ください。

相談コーナー (第 2 ホール 2 階席ロビー)

(11 月 14 日 12:00~13:30)

日頃の放射線安全管理業務での疑問やお困りのことなどについて、ご相談をお受けします。相談員には法令検討専門員会や各支部のベテランの方をお願いしています。お気軽にお立ち寄りください。

交流会 (鹿児島サンロイヤルホテル 太陽の間)

(11 月 14 日 18:00~20:00)

交流会は大会会場である鹿児島市民文化ホールから徒歩ですぐの場所で開催します。現在、様々なアトラクションを計画しています。参加された皆様の交流を深める絶好の機会です。多くの方の参加をお待ちしております。

【連絡先】

○放射線安全取扱部会事務局

日本アイソトープ協会学術・出版課

☎113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45

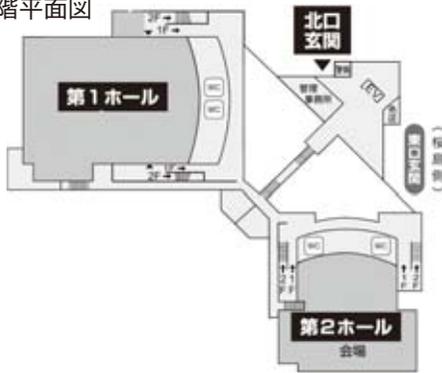
☎03-5395-8081 FAX 03-5395-8053

E-mail gakujuitsu@jrias.or.jp

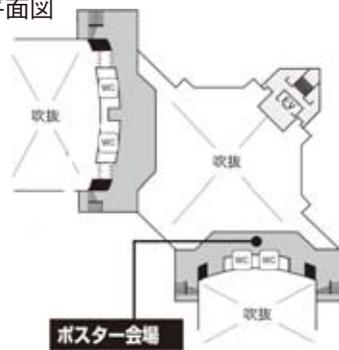
主任者 コーナー

会場レイアウト

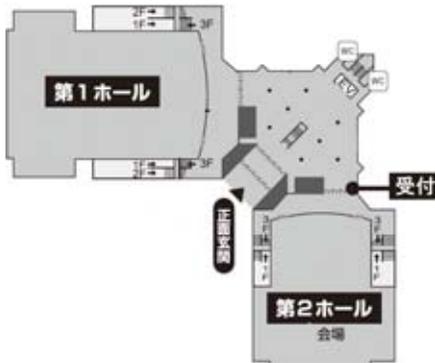
1 階平面図



3 階平面図



2 階平面図



階層図

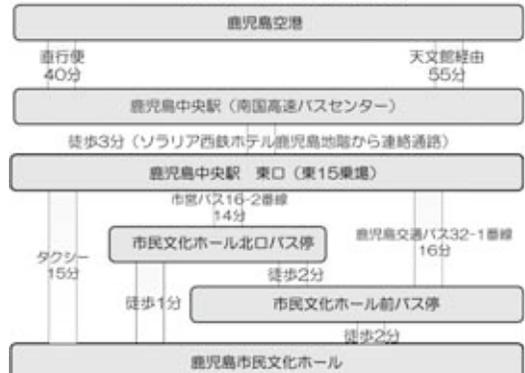


会場へのアクセス



交通機関

～航空機・JRでお越しの方～



平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会（第 54 回放射線管理研修会）

●期 日：平成 25 年 11 月 14 日（木）10:00～15 日（金）15:30 まで

●会 場：鹿児島市民文化ホール（鹿児島市与次郎 2-3-1）（JR 鹿児島中央駅よりバス 20 分）

●交流会：鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市民文化ホールから徒歩 2 分）

年次大会プログラム

○第 1 日目 11 月 14 日（木曜日）

第 2 ホール		
9:00～	参加受付（第 2 ホールロビー入口）	クローク（第 2 ホールロビー 主催者控室）
10:00～10:40（40 分）	大会実行委員長挨拶 部会総会 部会長挨拶 支部活動報告及び本部委員会報告、質疑・討論	9:00～18:00
10:40～11:40（60 分）	特別講演 I 座長：百島則幸氏（九州大学） 「放射線安全行政の現状と原子力規制庁」（仮題） 南山力生氏（原子力規制委員会 放射線規制室長）	機器展示（第 2 ホールロビー） 9:30～17:30
11:40～12:00（20 分）	ポスター発表紹介：馬田敏幸氏（産業医科大学）	書籍コーナー（第 2 ホールロビー入口） 9:30～17:30
12:00～13:00（60 分）	昼食休息（相談コーナー）	
13:00～14:30（90 分）	ポスター発表 （13:30～14:00） 奇数番号ポスター説明 （14:00～14:30） 偶数番号ポスター説明	ポスター掲示（第 2 ホール 2 階席ロビー）発表者は 11:00 までに貼り終え、翌日 12:30 まで掲示
14:40～16:20（100 分）	シンポジウム 1（一般公開） 「母親、子供たちに伝えたい放射線教育」 コーディネーター：石窪奈穂美氏（消費生活アドバイザー） ①「福島で聞こえる声から考えること」 磯部久美氏（神戸学院大学） ②「ある日突然被ばくしたといわれて—基礎教育の重要性」 古田悦子氏（お茶の水女子大学） ③「原発被災地で求められる放射線教育とは」 吉田浩子氏（東北大学） ④「放射線の『何』が怖いのか」 藤島かおり氏（日本アイソトープ協会）	相談コーナー（第 2 ホール 2 階席ロビー） 12:00～13:30
16:30～17:30（60 分）	特別講演 II（一般公開） 座長：福徳康雄氏（鹿児島大学） 「明治維新と現代日本」 原口 泉氏（鹿児島県立図書館長，志學館大学）	
18:00～20:00（120 分）	交流会（鹿児島サンロイヤルホテル）	

主任者 コーナー

○第2日目 11月15日（金曜日）

第2ホール		
9:00～	参加受付（第2ホールロビー入口）	クローク（第2ホールロビー）
9:30～12:30（180分）	シンポジウム2「福島放射線環境～その現状と課題」 座長：松田尚樹氏（長崎大学） ①「低レベル放射線被ばくとがんリスク」 秋葉澄伯氏（鹿児島大学） ②「福島周辺の放射性セシウムの分布状況と経時変化」 斎藤公明氏（日本原子力研究開発機構） ③「除染モデル実証事業における面的除染の結果と除染効果の維持について」 川瀬啓一氏（日本原子力研究開発機構） ④「水産物の汚染状況について」 森田貴己氏（水産庁） ⑤「原発事故による放射性物質が農作物に与える影響とその対策に関すること」 佐藤 誠氏（福島県農業総合センター） ⑥「福島第一原発事故における周辺住民の初期内部被ばく線量推計」 栗原 治氏（放射線医学総合研究所）	主催者控室 9:00～16:00 機器展示（第2ホールロビー） 9:00～14:00 書籍コーナー（第2ホールロビー入口） 9:00～14:00 ポスター展示（第2ホール2階席ロビー） 9:00～12:30 ※13:00以降に貼ってあるポスターは実行委員会で処分します。
12:30～13:30（60分）	昼食休息	
13:30～15:00（90分）	シンポジウム3「次世代RI施設へのロードマップ」 座長：島崎達也氏（熊本大学） 講演とパネルディスカッション ①「一RI施設改修のススメーRI利用者の希望に合った施設造り」 宮武秀男氏（京都大学） ②「小さくてもきらりと光る施設へ」 後藤稔男氏（宮崎大学） ③「老朽施設の有効利用と施設移転の経過報告」 杉原真司氏（九州大学）	
15:00～15:20（20分）	大会まとめ 座長：宮越順二氏（京都大学） 馬田敏幸氏（産業医科大学）、杉原真司氏（九州大学）、松田尚樹氏（長崎大学）、島崎達也氏（熊本大学）	
15:20～15:30（10分）	次回大会紹介、閉会	

ポスター発表申込み一覧

分類	番号	表 題	氏名(所属)
施設管理・運用・リスク	A-1	リニアック及びサイクロトロンによって発生した放射化学物の管理	秋本健太(がん研究会有明病院)
	A-2	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの新しいPET施設の紹介	織田圭一(東京都健康長寿医療センター研究所)
	A-3	大阪大学核物理研究センターの管理区域認証システムについて	鈴木智和(大阪大学)
	A-4	一元管理と個別管理を併用した複合放射線施設の安全管理体制の構築	佐々木徹, 織田圭一, 石井賢二, 工藤善朗, 海野泰, 横川直樹, 山川通隆(東京都健康長寿医療センター)
	A-5	放射性ヨード治療病室で従事する女性スタッフ(看護師業務)に対する被ばく低減への取り組み	長野圭司(関西電力病院)
	A-6	PET施設におけるRI管理自動化の試み	渡部浩司(東北大学)
	A-7	放射線取扱者個人管理システムの現状と課題	泉水仁(熊本大学)
	A-8	避難経路確保のための, 実験用ワゴン固定方法	池田岳祐(北里大学)
	A-9	施設32年目の現状と今後の課題	和田真由美, 赤壁悦子(福井大学)
	A-10	岡山大学自然生命科学研究支援センター光・放射線情報解析部門鹿田施設PET区域の日常管理と問題点	大和恵子, 永松知洋, 金野郁雄, 花房直志, 小野俊朗(岡山大学)
	A-11	ドラム缶に収納した放射化学物の定量方法の検討	向井弘樹(理化学研究所)
	A-12	放射線管理支援システムの構築	藤原茂樹(理化学研究所)
	A-13	簡易型 ¹³⁷ Cs照射装置を用いたGM管式サーベイメーターの特性試験	小坂尚樹, 木村圭二, 林恵利子(東京大学), 小池裕也(明治大学), 野川憲夫(福島大学)
	A-14	液シンによるH-3, I-125同時測定に用いる市販シンチレータの影響について	庄司美樹, 近藤隆(富山大学)
	A-15	診療従事者における不均等被ばくの評価について	金子真弓, 尾川松義, 村上朋史, 江原真宏, 滝下啓介, 松田瞳, 野村和人, 千葉弘, 樋渡友紀, 中村康彦, 白井淳之(横浜市立大学附属病院)
	A-16	腫瘍が動くPET/CT呼吸同期システムを使用して	福島祐司(北海道恵愛会札幌南三条病院)
	A-17	降雪地域の屋上設置廃棄設備の改修工事	齋藤美希(弘前大学)
教育訓練・啓発活動	B-1	放射線安全を基軸としたエネルギーシステム理解のための若手研究・教育者育成	大矢恭久, 宮澤俊義, 矢永誠人, 奥野健二(静岡大学)
	B-2	放射線リスク認知-東京電力福島第一原子力発電所事故後の状況	三浦美和, 山内基弘, 松田尚樹(長崎大学)
	B-3	自然放射能線源を用いて行う放射線計数の統計変動を理解するための測定実習	河野孝央(核融合科学研究所)
	B-4	カリウムを用いた放射線の教育訓練について	藤野秀樹(兵庫医療大学)
	B-5	放射線部における看護師の職業被ばく低減への活動~個人被ばく線量の調査・広報活動から~	村上朋史, 尾川松義, 金子真弓, 江原真宏, 滝下啓介, 松田瞳, 野村和人, 千葉弘, 樋渡友紀, 中村康彦, 白井淳之(横浜市立大学附属病院)
	B-6	東京大学における放射線管理担当教職員との情報交換-放射線安全懇談会の活動紹介-	林恵利子, 飯本武志, 木村圭志, 神子公男, 田野井慶太郎, 鈴木崇彦, 田中知(東京大学)
分科会・委員会・支部報告	C-1	企画専門委員会の活動-平成25年度教育訓練講習会アンケート調査結果とその考察-	第27期放射線安全取扱部会企画専門委員会
	C-2	平成25年度放射線安全取扱部会年次大会(第54回放射線管理研修会)-実行委員会の活動について-	平成25年度年次大会実行委員会
	C-3	分科会 PET 施設管理研究会の活動	佐々木将博(先端医療センター)
	C-4	放射線計測分科会について	野村貴美(元 東京大学), 岩井淳(千代田テクノ), 山田孝一(日立アロカメディカル)
	C-5	近畿支部の活動報告-近畿支部員のこんな活動も-	大河原賢一, 尾崎誠(放射線安全取扱部会近畿支部)
震災・地域貢献・環境放射能	D-1	放射線安全の専門家としての地域貢献活動(消防職員を対象としたN災害時の対応)	上村実也(熊本大学)
	D-2	Cs-137の茶葉への転流について	塩井誠次郎, 川井妙子, 加留部善晴(福岡大学)
	D-3	住民が自ら取り組む除染について	高橋克彦(獨協医科大学)
	D-4	鹿児島大学郡元地区RI施設の将来ビジョン	尾上昌平, 福徳康雄(鹿児島大学)
	D-5	環境試料中のヨウ素129分析法	川村秀久(九州環境管理協会)
	D-6	千葉県柏市産食品に関する安全・安心確保のための自治体活動	布川淳(千葉工業大学), 飯本武志(東京大学), 高嶋隆太(東京理科大学), 柴谷誠一(柏市役所)
	D-7	符号化多孔窓(Coded Aperture)を用いた感度と分解能に優れた除染用「セシウムカメラ」	豊田亘博, 大槻宗司(大阪大学), 高田真志(放射線医学総合研究所), 高橋正二(高橋科学)

揭示期間 (11月14日11:00~15日12:30)

発表時間 (11月14日13:00~14:30)

13:30~14:00 奇数番号ポスター説明 14:00~14:30 偶数番号ポスター説明